

The 3 Little Pigs

ナレーター : 昔むかしあるところに、お母さんぶたと3匹のこぶたがいました。
お母さんぶたが言いました。
さあ、あなたたちはもう大きくなったのだから、自分たちの家を建てなさい。

3匹のこぶた : オーケー！

ナレーター : 一番小さいぶたは、わらの家を作りました。

♪ わらで家を作ろう！屋根もつけて、ドアもつけて…

オオカミが近づいてくる。

ナレーター : そこへ突然、ドアをノックする音が…

オオカミ : こぶたよ、こぶた。おれさまをわらの家に入れておくれ。

こぶた : だめ、だめ、だめ！わたしのわらの家には絶対に入れてあげない！

オオカミ : 入れてくれないなら、こんなわらの家、吹き飛ばしてやる！

♪ 私の家が吹き飛ばされてしまった、もうわらの家はない…

オオカミはわらの家を吹き飛ばしてしまい、高らかに笑っている。

ナレーター : わらの家が吹き飛ばされてしまったので、一番小さなぶたは、お兄さんぶたのところに逃げました。お兄さんぶたは木の家を作っています。

♪ 木で家を作ろう！屋根もつけて、ドアもつけて…

オオカミが近づいてくる。

ナレーター : そこへ突然、ドアをノックする音が…

オオカミ : こぶたよ、こぶた。おれさまを木の家に入れておくれ。

こぶた : だめ、だめ、だめ！絶対にぼくの木の家には入れてあげないぞ！

オオカミ : 入れてくれないなら、こんな木の家、吹き飛ばしてやる！

♪ ぼくの家が吹き飛ばされてしまった、もう木の家はない…

オオカミが木の家を吹き飛ばしてしまい、高らかに笑っている。

ナレーター : 木の家が吹き飛ばされてしまったので、お兄さんぶたは、レンガの家を作っている一番大きなお兄さんぶたのところに逃げました。レンガの家はとても丈夫で強い家！

♪ レンガで家を作ろう！屋根もつけて、ドアもつけて…

オオカミが近づいてくる。

ナレーター : そこへ突然、ドアをノックする音が…

オオカミ : こぶたよ、こぶた。おれさまをレンガの家に入れておくれ。

こぶた : だめ、だめ、だめ！何を言ってるんだ！ぼくのレンガの家に絶対に入れてやるもんか！

オオカミ : それなら、こんなレンガの家、吹き飛ばしてやる！

オオカミがレンガの家を吹き飛ばそうと、ぴゅーっと息を吹きかける。
けれども、家はびくとも動かない。

オオカミ : もう一回もう一回！こんなレンガの家、吹き飛ばしてやる！

オオカミがもう一度レンガの家を吹き飛ばそうと、ぴゅーっと息を吹きかける。
けれども、家はやっぱり動かない。オオカミは、疲れてしまった。

ナレーター : そしてこぶたたちは歌いました。

♪ この家は本当に強いなあ。丈夫な家だなあ。

ナレーター : オオカミはいいことを思いつきました。

オオカミ : そうだ！あそこに煙突があるぞ！
屋根まで上って、煙突から入って、こぶたを3匹とも食べてやる！

ナレーター　：　このオオカミのたくらみを3匹のこぶたはしっかり聞いていました。

3匹のこぶた　：　ようし、お湯をわかそう！熱く熱くしてやるぞ！

そうとは知らないオオカミは屋根まで上がって煙突から家に入ったところ…
熱いお湯の中に落ちてしまいました。

3匹のこぶたは、笑っている。

オオカミ　　：　熱いっ！あつい！熱いよ～！

3匹のこぶた　：　どうだ！

オオカミ　　：　もうお前たちこぶたとは遊んでなんかやらないからな。

ナレーター　：　3匹のこぶたは、喜んで歌いました。

♪　　　　　　オオカミなんて怖くない！怖くないったら怖くない！
オオカミなんて怖くない！大きくても怖くない！

悪いオオカミも怖くない！怖くないったら怖くないよ！
僕も私も怖くない！全然怖くない！

ナレーター　：　こうして3匹のこぶたはいつまでも幸せに暮らしましたとさ。

The END